

# 新着図書案内No. 2

## 『昨夜のカレー、明日のパン』

木皿 泉/著 河出書房新社

悲しいのに、幸せな気持ちにもなれるのだ。7年前、25歳で死んだ一樹。遺された嫁のテツコと一緒に暮らし続ける一樹の父・ギフの何気ない日々にかきめられたコトバが心をうつ連作短篇集。



## 『一瞬で幸せになる方法』

阿部敏郎/著 サンマーク出版

元シンガーソングライターで沖縄県在住のスピリチュアル講演家が、日本全国で展開している「いまここ塾」。その塾長による伝説の講演。「どのようにすれば、苦しみを減らして生きていくことができるのか。」「そもそも自分とは何者で、何のために生き、これからどこに向かっていくのか。」などが、易しくユーモラスに語られる。

## 『神様の休日』岡本貴也/著 幻冬舎

あの日、僕はすべてを失った。生きるために、青年が選んだのは復元納棺師となって死と向き合うことだった。実在の復元納棺師をモデルにした真実の物語。



## 『朝に効くスープ夜に効くスープ』

浜内千波/著 日本文芸社

冷え・便秘・メタボを改善したい、デトックス、アンチエイジング、ダイエットサポートや生活習慣病の予防にも効果あり。



## 『アメリカのめっちゃスゴい女性たち』

町山智浩/著 マガジンハウス

女も男も、人種も生まれも関係ない、やる気と努力で栄光をつかんだ55人のワクワクする負けない人生！



## 『直木賞受賞エッセイ集成』

文藝春秋/編 文藝春秋

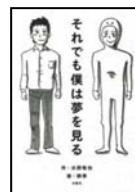


平成26年1月の選考で第150回を迎えた直木賞。21世紀初の受賞者は、第124回の重松清、山本文緒の両氏。この回から第150回までの34名の人気作家と新受賞者の受賞エッセイをまとめた1冊。

## 『それでも僕は夢を見る』

水野敬也・鉄拳/著 文響社

「夢」はずっと僕のそばにいた。けれど、いつまでも「夢」を追うのが辛くなった僕は、ある日彼を捨てた。老いた主人公がひとり病室で横たわるとき、捨てたはずの「夢」が戻ってくる。「夢」に励まされ、主人公が最期に書き上げた一通の手紙とは？



## 『サウンド・オブ・サイレンス』

五十嵐貴久/著 文藝春秋



高校1年の夏子はある日、クラスで浮いた存在の春香が、実はろう者だと知る。春香のろう学校時代の友人・美紗と知り合った夏子は、ダンスをしたいという美紗に協力して、春香とやはり中途失聴者の女子大生・澪を説得してダンスチーム結成にこぎつける。目指すはコンテスト出場。彼女たちの挑戦が始まった。

## 『不祥事』池井戸 潤/著 講談社

「ベテラン女子行員はコストだよ。」そう、うそぶく石頭の幹部をメッタ斬るのは、若手ホープの花咲舞。トラブルを抱えた支店を回って業務改善を指導する花咲舞は、事務と人間観察の名手。歯に衣着せぬ言動で、歪んだモラルと因習に支配されたメガバンクを蹴り上げる！



## 『あなたの知らない愛知県の歴史』

山本博文/著 洋泉社

尾張の熱田神宮に「草薙 剣」があるのはなぜか？ 桶狭間合戦は「奇襲」なのか、「正面攻撃」だったのか？ 家康の次男・結城秀康は、ホントは双子だった！？ なぜ、三河と尾張は一緒の愛知県になったのか？ Q&Aで郷土の歴史がスッキリわかる。

## 『ピエタ』大島真寿美/著 ポプラ社

18世紀ヴェネツィア。『四季』の作曲家ヴィヴァルディは、孤児たちを養育するピエタ慈善院で、“合奏・合唱の娘たち”を指導していた。ある日教え子エミーリアのもとに恩師の訃報が届く。——史実を基に、女性たちの交流と絆を瑞々しく描いた傑作。



## 『バットマンは飛べるが着地できない』

木野 仁/著 彩図社



バットマンの滑空を計算すると、着地の際に瀕死のダメージを負ってしまう？ ゴルゴ13は地球の重力を味方にして敵を仕留めている？ 誰もが知っているヒーローたちの強さの秘密を科学で解明！